

絆 求 め て

8月12日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



「遊びは科学」園児の主体的な活動に感激！ …園訪問記録

7月19日(月)、松本光明幼稚園を訪問させていただきました。梅雨明けとともに連日猛暑日が続く中、子ども達は、自分の課題を明確に持ち、様々な学びを展開していて、ビックリ！「子ども達の主体的な学びを保障するために、試行錯誤できる時間を最大限に確保しています。途中で、プールの時間を入れるため、追究を中断してしまうのが残念だけど、子ども達にとって、プールもとても楽しみな時間なのではないね…」と園長先生は話されました。その言葉を裏付けるように、プールで中断された追究が、昼食後の午後の活動の時間にもつながり、午後の暑さの中でもあちらこちらから子ども達の活動の声が園全体に響き渡っていました。季節柄、新型コロナウイルスへの対応と共に、暑さ対策は非常に重要な課題です。子ども達の安全・安心への配慮が十分になされているからこそ、子ども達は思う存分活動することができます。それが当たり前 の営みとしてなされている環境に、園長先生をはじめ光明幼稚園の全ての先生方の保育者としての使命感の高さを実感する1日でした。

<ある園児の学びの姿から>

A君は、ダンゴムシにとっても興味を持っている男児。この日も木っ端を使って迷路を作り、ダンゴムシが迷路を通してゴールにたどりつくことを追究。これまでは、園舎の通路で活動していたのですが、今日の場所は園庭。そのため地面の起伏が原因で迷路に入れたダンゴムシは、次々に脱走。なかには木っ端の壁をよじ登り脱走するダンゴムシも…

そこでA君は考えました。「よし！壁を高くしよう。」しかし、壁が高くなると壁を手で押さえないと倒れてしまう。… 地面がでこぼこで迷路は隙間だらけダンゴムシ脱走…そんな新たな課題にA君は頭をフル回転させ考えます。



A君は、高くして不安定になった木っ端の壁は、後ろから別の木っ端で抑え転ばないようにしました。また、迷路を作っていた木っ端と木っ端の隙間をなくそうと、木っ端の隙間ができないように並び替たり、隙間に土を入れたりしました。こうして、ダンゴムシの脱走問題を解決したのです。「ダンゴムシに似た虫にワラジムシいるよね。どう違うんだっけ？」そんな質問に、「ダンゴムシはまるくなるけど、ワラジムシはまるまらないんだよ！」と得意げに返答。ダンゴムシを通して、様々な学びを積み上げてきていることが、

数分間の会話と彼の行動から読みとれました。虫好きなA君、そのA君が興味をいだいたダンゴムシ、ダンゴムシのことをもっともっと知りたいという彼の思いが、彼の活動の原動力となり、次から次へと追究が続いていきます。正にA君の主体的な学びが成立している一コマであり、「遊びは科学」と納得する姿です。

…松本光明幼稚園では、子ども理解に立った保育を実践するために、保育の可視化に取り組んでいます。特に、ラーニング・ストーリーとドキュメンテーションに力を入れ、実践を積み重ねています。ラーニング・ストーリーについては、園児一人一人について1ヵ月に1枚程度作成、子どもの学びの記録の蓄積、保育の振り

返り、保護者への情報提供と共通理解のためのアイテムとして活用しているそうです。また、ラーニング・ストーリーを基に、活動に関わるドキュメンテーションを作成し、子ども達の活動を追うことで保育の振り返りを行っています。以下に、松本光明幼稚園の実践の様子を紹介します。

(1)ラーニング・ストーリーの作成から

…ラーニング・ストーリーについては、子どもの姿を捉える「5つの視点」を大切に、保育者が気になった子どもの活動の瞬間を写真として記録。「①タイトル」「写真」「②写真に添えた、子どものつぶやき、学びや可能性の分析」「③具体的な活動の様子（エピソード）」「④教師としての願い」をA4の用紙1枚にまとめ作成。「写真に添えた、子どものつぶやき、学びや可能性の分析」については、幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿を意識し記述。内容によって色を変えて表記する工夫もしています。

2021年7月9日

タイトル 「ありがとう！ われにもこわれたよ！」

①タイトル：タイトルづけが大切とのこと。子どもの育ちとして実感できたことや伝えたいことを表現

②写真を貼り、写真にまつわる子どものつぶやきや気づき、保育者としての分析・振り返りを「吹き出し」で入れています。単色にせず、吹き出しの色や文字の色を変え、読み手を引き付ける工夫をしているとのこと。

③具体的な子どもの取り組みを記録します。保育者としての感想や想像ではなく、事実を箇条書きで記録するそうです。できるだけ、この部分を充実させるために、記録スペースも広くとっています。

④これまでの取り組みから、活動を通して育てて欲しい内容を、「教師の願い」として端的に記述しています。

(2)ドキュメンテーションの作成から

…年少、年中、年長のそれぞれの学年での活動を時系列にたどりながら、子どもの学びの様子を可視化しています。その活動での個々の子どもの具体的な姿は、ラーニング・ストーリーでの記録が活かされています。ドキュメンテーションについても、幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿を意識した記述を大切にしているとのこと。



ジャガイモ畑で発見した虫や生き物に興味を持った子ども達、そこから「おたまじゃくし&いもり捕獲大作戦」に発展。更に園での飼育を通し、生き物の共食いという事実と直面する。餌として何を与えることが共食いを回避できるのか…そして育ててきたいもりの別れ。子ども達はどうか別れを受け入れ、活動に区切りをつけたのか…。一連の活動を振り返った時、子ども達の学びの深まり、深まりを支える保育者の手立てや具体的支援など、保育を総合的に読み取ることができました。

←←飼育での「共食い事件」発生の場面より→→

園訪問を終えて…松本光明幼稚園の保育記録の実践は、園での学びを小学校につなぐ上で有効な手立てと感じました。機会がありましたら、松本光明幼稚園の実践を紹介させていただき、共に学び合える場を提供できたらと思います。（私学振興専門員）